

古事類苑

飲食部三

料理中

〔倭名類聚抄十
六〕肴 野王案、凡非穀而食、謂之肴。胡交反、字亦作餚、和名佐加奈。

〔箋注倭名類聚抄四
酒〕賓之初筵鄭箋云、凡非穀而食之曰肴、玄應音義云、國語飲而無肴、賈逵曰、肴

菹也、凡非穀而食之曰肴、顧氏蓋引是等書也、說文肴啖也、○按古總謂所食魚菜爲奈、佐加奈酒略中、魚菜之義即謂下酒物也、然則佐加奈亦肴之一端、非肴之專訓也、布久之毛乃、蓋服物之義、非穀而

食、謂之夫久須源氏物語帝木卷所謂極熱乃草藥乎服之氏是也、

〔類聚名義抄八
餚〕通肴字、音爻、サカナ、和ケウ。

〔伊呂波字類抄左
食〕肴 サカナ 餚

〔下學集下
飲食〕肴 サカナ 同字

〔平他字類抄上
飲食〕肴 サカナ 荻 サカナ

〔易林本節用集左
食服〕肴 サカナ 荻 サカナ 精進者也

〔秋齋間語四
眞菜、龜菜〕といふ時、眞菜はまなとよみて魚也、故にまな板まな箸といふは、魚板、魚ば
しなり、然るに精進物調するまな板の名はいかゞ、明月記などに、今日姫君御眞菜始なんどある
は魚をまいりそめらるゝ事勿論なりとぞ、子をもへらくすべて菜の字肉にもつかへばこそ、孔
子をまつるを釋奠とも釋菜ともいへり、釋もそれくにときわけてつらぬる義菜をつらねな